

財団「指導普及部会」委員による 市販ディスクを教材に その1

①ラバース・コンチェルト A Lover's Concerto (サンディ・リンツァ作詞、デニー・レンデル作曲)

埼玉県川越市立芳野小学校教諭 栗飯原喜男

①

フジテレビ系列のドラマ「不機嫌なジーン」の劇中歌として使われている『ラバース・コンチェルト』の歌手の名への問合せが、CDショップに殺到しているとのこと。

その歌手は、ジャズのみならずポップス界でも最高のボーカリストの一人だった、広い音域と豊かな声量を誇る歌姫サラヴォーン（1924～1990）です。本誌でもおなじみのジャズ評論家、悠雅彦氏はその著書『ジャズCDの名盤』（文春新書）の中で、「サラはオペラ歌手並みの声域をもつ。唱法も舞台姿も誠にエレガント。まさに“ディヴァイン”[divine]の名に恥じない歌姫であり、歌うために生まれてきたジャズボーカルの申し子だった」と絶賛しています。

前述のドラマで初めて耳にした、おそらくサラを知らない若い世代の人たちが、彼女の美声に心を奪われたのも当然かもしれません。

サラがポピュラー・シンガーとしての本領を発揮したのがこの『ラバース・コンチェルト』なら、ジャズ・シンガーとしての彼女を知るのに、あのシャンソンの名曲『枯葉』は格好のディスクです（VICJ-23568）。なんと、曲のアタマから思いきったアドリブのオン・パレード！ 猛スピードで突進していく、まさ



にスキヤットの名手たるサラの一人舞台。おなじみのあのメロディーはチラリとも出てこないという、まさに異色の名唱。ぜひお勧めしたい1枚です。

*

さて、本題の『ラバース・コンチェルト』ですが、1965年にニューヨークで録音された《POP ARTISTRY OF SARAH VAUGHAN》に収められています。このアルバムは、1965年に大ヒットしたビートルズの『イエスタデイ』をフィーチャアして組まれています（CD：UCCM-3057。2005年1月25日発売）。曲は静かに流れるストリングスの響きに始まり、ドラムスのフィルインで一気にテンポアップ。やがてサラの“*How gentle is the rain*”のヴォーカルが入り、このフレーズを一度聴いたら耳にこびりついて離れないボリューム感あふれるその歌声が



音楽全体を包み込んでいきます。

実はこの曲、オリジナルの演奏はトイズ（Tois）という3人組の黒人女性コーラスグループのものでした。グループのデビューに際して、ソングライターのサンディとデニーが、クラシックの作品を歌わせようというアイディアを思いつき、その候補になったのがご存知J.S.バッハの作と伝えられる『メヌエット ト長調』だったのです。この曲が衣替えして、全米第2位（1965年）を記録するミリオンセラーになりました。そして1960年代に蘇った、もっともポピュラーなクラシック作品として、40年たった今でも広く愛聴されています。

授業での活用については、教育芸術社（平成17年度版）6年生の教科書に、器楽アンサンブルとして掲載されています。アンサンブルの仕上がった頃を見計らって、このサラ盤とトイズ盤（RHINR 2-70626）を比較鑑賞するとよいでしょう。トイズ盤が輸入盤のため入手が困難な場合は、サラ盤だけでも十分にこの曲のよさを伝えることができます。